



飯田 裕樹

IIDA HIROKI

1985年 柏崎市出身

2017年 ピーチビレッジ刈羽入社

お盆に向けて「白鳳」や「あかつき」など刈羽村の砂丘地で栽培される砂丘桃の出荷がシーズンを迎えている。

水はけがよく太陽の照り返しが強い砂丘地の桃は糖度が高く、刈羽村では正明寺園芸組合を中心に栽培され昔から親しまれてきた。ピーチビレッジ刈羽が管理する、ぴあパークとうりんぼ内の桃園でも2ha、315本の木が栽培され、たわわに実った桃が出荷の時を静かに待っている。

桃園で朝早くから収穫作業を行う飯田裕樹さんは、2年ほど前にピーチビレッジ刈羽に入社。現在は、桃やミニトマト、ハウス栽培のトマト、イチゴ、野菜など、栽培から収穫まで園芸全体を管理する農業事業部で毎日汗を流している。

飯田さんは柏崎市出身。大学の工学部で建築を専攻し大学院を修了。その後、新潟市内の大手ゼネコンに就職。一級建築施工管理技士の資格を持ち、20代から東京でマンション建設などの現場監督を任されてきた。

そんな彼が父から請われ、悩んだ末に地元に戻りピーチビレッジ刈羽に入社したのは一昨年の10月だった。

以前の仕事は、高層ビル群の中で建築

資材や大型クレーンなどの重機に囲まれ、図面や書類の作成、現場や取引業者から日に60本以上もかかってくる電話の対応など、スタッフの命や安全にも責任を負う厳しい環境だった。それに比べて現在は、自分ではどうにもならない気象条件や自然を相手にする仕事。まったく違う環境で働くことを今、飯田さんは楽しんでいる。

祖父が正明寺の桃農家だったこともあり、大叔父にあたる桃園園長の入沢進さんに手ほどきを受けながら桃の栽培を学ぶ日々。春は枝の剪定に始まり、摘蕾、摘花、摘果、袋かけ、病気予防のための消毒など桃は手間のかかる果物。砂地の傾斜地で栽培されるため肥料や水が留まらずに流れてしまい、1本1本を常に細かく観察しながら、その木にあった手当をしていくことが重要になる。

さらに砂丘地では砂浜と同じで、夏は素足で歩けばやけどするほど熱くなる。日照りが続いた去年は2000ℓ以上の散水をしたという。

飯田さんは桃園だけでなく果樹全体の管理を任されているため他の作物の栽培も始めている。去年はイチジク、シャインマスカット、サツマイモ、さらに今年はパプリカも育て、人気の焼いもと共にピーチビレッジ（宿泊・日帰り温泉施設）のロビーで販売を始めている。

建設業時代に培った仕事の組み立てや作業効率を考えた人員配置、原価計算を踏まえ常に新しい試みを取り入れていく彼のスピード感あふれる仕事ぶりに、頼もしい未来への道筋を感じている。



お問い合わせ

ぴあパークとうりんぼ
刈羽郡刈羽村大字刈羽4286-2
TEL 0257-31-8600(代)
<http://www.tourinbo.com>

